
ノン カピスコ・見えすぎる鏡

天野 涙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノン カピスコ・見えすぎる鏡

【Nコード】

N9968D

【作者名】

天野 涙

【あらすじ】

美容師の裕二の店には、古い鏡がある。恩師の聡から引き継いだものだ。その鏡には、秘密があった。

祐二の店『サロンドシユー』には、古い鏡があった。彼を指導してくれた恩師の聡から受け継いだものだ。モダンな店内には、ちよつと不似合いなアールデコ調の古い鏡。彼はその鏡の前では、自分の実力以上の力が出てくる気がしてゐる。

そして、いつの頃からだろう？

鏡の前の客の心が鏡にうつるのが見えるようになった。

ある者は、失恋したばかり。

ある者は、夫婦喧嘩してきたところ。

実際客はいろいろな思いを抱いて、店に来ていると祐二は実感するのだ。

そしてさりげなく、相手の気持ちをつかみ、

いたわる言葉をかけて接客する。

だから彼の店はいつも繁盛していた。

祐二は聡からこの鏡を引き継ぐ時、こう言われていた。

『いいか。祐二、この鏡から何が見えても、決して口外するな。

お客の為でもあり、自分の為だからね。』

聡は、鏡を祐二に引き継ぐと、数日後に不慮の事故で亡くなってしまったのだ。

今思うと、きっと彼は、この鏡で、自分の死に顔をみたのではないかと祐二は思っている。

ある日、常連客の沙織がやって来た。

予約は2時からなのに、少し早めに来た。何か疲れているようである。

彼女は俗に言うセレブ妻だが、夫とは上手くいっていないようだった。

シャンプーをしてから、鏡の前に座った沙織。

髪をさわった裕二は何かイヤな予感がする。

シャンプーで洗ったはずなのに、べったりと何かまとわりついてい
るような手触り。

『ねえ、裕二さん。ばっさりきっちゃって。』

『ええ、こんなにきれいな髪なのに、どういつ心境の変化？』

つとめて明るい口調で話す裕二。

でも彼には見えてしまっていた。

彼女が夫を殺害してきた事が……。まるでブロックのように夫
の死体を

切断してきた彼女の姿が見えていた。

『裕二さん、どうしたの？手が止まってる……。』

裕二を見上げた沙織の眼が光った気がした。

（私が何をしてきたか、気付いたの？）

裕二は次の言葉を探していた。

その言葉によつては、鏡で自分の死に顔を見る日が早くなるのを悟
っていたから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9968d/>

ノン カピスコ・見えすぎる鏡

2010年10月9日15時10分発行